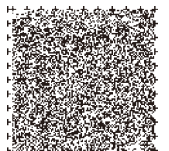


基本構想

- 1 まちづくりの将来像
- 2 まちづくりの目標
- 3 市の概要・特色
- 4 総合計画とは



1. まちづくりの将来像

(1) 将来都市像

第6次所沢市総合計画は、総合的かつ計画的な市政運営を図るために策定する、本市の最上位計画です。

今後10年間にめざすべき姿を、本市のまちづくりに関わるすべての人たちと共有するため、本市の立地や歴史、市民文化の特色、市民憲章、平和都市宣言や第5次所沢市総合計画の進捗状況などを踏まえて、みんなで考えた「将来都市像」を掲げます。

将来都市像

絆、自然、文化 元気あふれる『よきふるさと所沢』

将来都市像に込めた思い

「絆、自然、文化」

人と人との絆を紡ぎ、人と自然が調和したまちづくりを進めます。

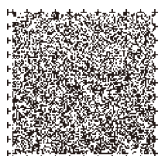
- 子どもから大人まで、市民一人ひとりがつながりを感じ、自分も誰かの役に立っている、必要とされていると実感できるまち。
- ホタル舞い、カブトムシのいる里山で、子どもたちは「絆」を感じながらたくましく例えば、泥んこになって遊ぶまち。
- 所沢がもつ歴史や風土に、新たな市民文化が融合した所沢ならではの「文化」の風薫るまち。



豊かな自然に囲まれた狭山丘陵



市が一体となるところざわまつり



「元気あふれる」

市内外の人々に誇れるまちづくりを進めます。

- まちの魅力を高め、にぎわいを生み、働く場としても成長していくまち。
- 誰もが自立自尊の気概を持ち、心身ともに健康で生きがいをもって活躍する「元気あふれる」まち。
- まちのなかにもみどりがあり、活気と落ち着きが同居するまち。



所沢駅周辺の中心市街地



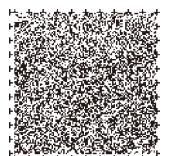
© KENGO KUMA & ASSOCIATES
© KAJIMA CORPORATION

COOL JAPAN FOREST 構想の拠点施設「ところざわサクラタウン」
※詳細は13ページ参照

「よきふるさと所沢」

子どもたちにとって所沢はふるさとです。

- 人生のどんな時でも懐かしく思い起こせる、そんなふるさと創りを進めます。
- 大人は子どもたちとまっすぐに向き合い、伝えるべきことをきちんと伝え、家庭と地域、学校などがそれぞれの役割を果たし、一体となって、子どもたちを育てていくまち。
- 子どもたちが例えば、「早く大人になりたいな」と思える、そんな大人がいるまち。



(2) 土地利用構想

土地は、現在そして将来にわたり、かけがえのない貴重な資源であるとともに、市民生活や産業活動などの基盤となるものであり、将来都市像の実現に深く関わります。

公共の福祉を優先して、無秩序な市街地の拡大を防止し、地域の特性を活かしながら調和のとれた土地利用を図り、持続可能な街づくりを進めます。

①自然との調和に配慮した土地利用

潤いと恵みをもたらす豊かな自然や優良な農地、美しい景観などの資源を、次世代に継承していくために、無秩序な開発を防止して緑地などの維持・保全に努めるとともに、これらの豊かな自然を活かした土地利用を進めることで、環境との共生に配慮し、自然環境に負荷を与えない持続可能な発展を図ります。

②良好な居住環境の形成をめざした土地利用

市街地における住みよい居住環境を向上させるため、計画的に都市基盤の整備改善を進め、子どもから高齢者まで安心して暮らせる、安全でみどり豊かな居住環境の形成を図ります。

③都市拠点の形成をめざした土地利用

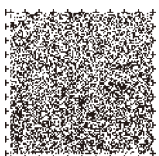
都市としての自立性や活力の創出に向けて、多様な都市機能が集積する、中心市街地や鉄道駅周辺においては、商業・業務施設の集積や土地区画整理事業[※]を活用した市街地整備などにより、活気とにぎわいに満ちた都市活動を可能とするための拠点の形成を図ります。

④土地利用の転換

社会経済情勢を踏まえ、市域を総合的に捉えて新たな活力を生み出すために、適正な土地利用の転換を図ります。



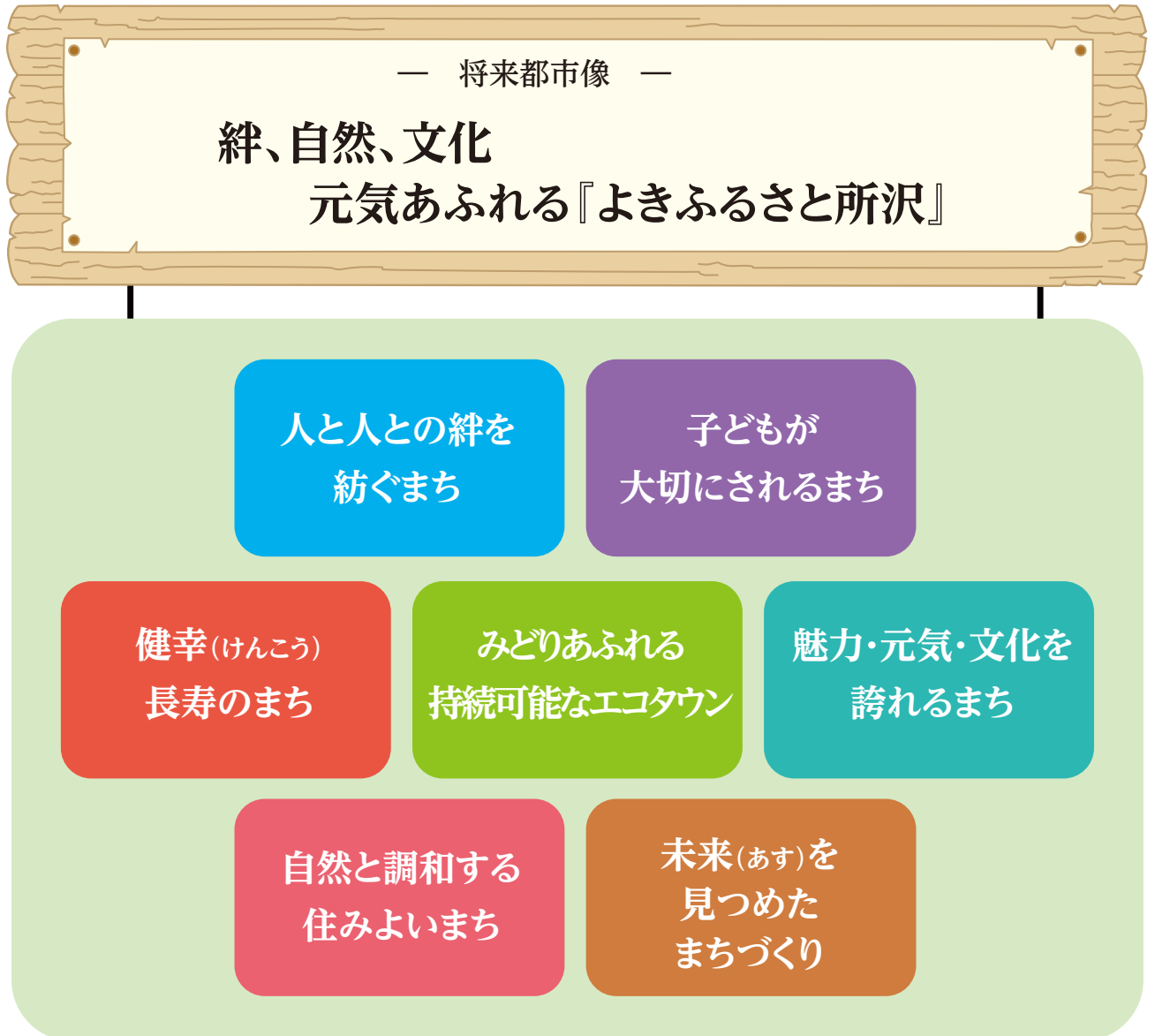
[※]土地区画整理事業…道路、公園、河川等の公共施設を整備・改善し、土地の区画を整え宅地の利用の増進を図る事業。



2. まちづくりの目標

第6次所沢市総合計画では、将来都市像を実現するうえで、市政運営に必要な事項を分野別に整理するため、7つの「まちづくりの目標」を定めます。

それぞれの目標は分野ごとに途切れるのではなく、相互に連動しながら、持続可能なまちづくりを進めます。



(1) 人と人との絆を紡ぐまち

誰もが安心して暮らせるよう、市民一人ひとりがお互いにいたわり学びあいながら絆を紡ぎ、地域で見守り支え合うまちをめざします。

(2) 子どもが大切にされるまち

子どもたちが、地域の「絆」の中でしっかりと学び、健やかに育っていけるよう、家庭、地域、学校などがそれぞれの役割を果たし、一体となって子どもが大切にされるまちをめざします。

(3) 健幸（けんこう）長寿のまち

市民一人ひとりが、それぞれのおかれている状態の中で、心身の健康を実感しながら、地域の中で安心していきいきと暮らせるまちをめざします。

(4) みどりあふれる持続可能なエコタウン

エネルギーや資源を多量に消費する浪費型の生活を見直し、人と自然がともに生きる、みどりあふれる持続可能なまち^{*}をめざします。

(5) 魅力・元気・文化を誇れるまち

農業、商業、工業、観光業などの各産業の活性化を図るとともに、これらが自然環境や文化、芸術などと複合的につながり、魅力あふれるまちづくりをめざします。

(6) 自然と調和する住みよいまち

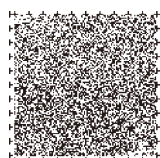
まちなかにみどりがあふれ、そこに人々が集い、思わず歩きたくなる、自然と調和した安全で住みよいまちをめざします。

(7) 未来（あす）を見つめたまちづくり

人々が持つ力を存分に活かし、従来手法にとらわれない行政改革に取り組み、持続可能な行財政運営を進めることで、将来都市像の実現に向けたより効果的な市政運営をめざします。



※持続可能なまち…将来の世代の思いも満たしつつ、現在の世代の思いも満足させるようなまち。



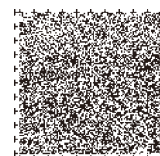
3. 市の概要・特色

(1) 位置・地勢

本市は都心から30kmの首都圏にあり、埼玉県西部地域に位置する都市で、総面積は72.11km²に及びます。

鉄道交通の面では、市全域で西武鉄道4路線、JR東日本1路線、あわせて11の駅があり、都心へのアクセスも短時間で利便性が高くなっています。中でも南部にある所沢駅は、西武池袋線と西武新宿線が交差する駅となっています。

また、中央部を一般国道463号が横断し、東部には関越自動車道所沢インターチェンジが位置し、西部には首都圏中央連絡自動車道入間インターチェンジが隣接するなど、交通の要衝となっています。



(2) 沿革

本市は、約3万年前から石器を用いた人々の痕跡が残り、日本の旧石器時代研究に重要な方向性を与え全国的にも有名な「砂川遺跡」^{すながわ いせき}や、4～5千年前の縄文時代中期につくられた大規模集落「膳棚遺跡」^{ぜんだないせき}などからも、太古から人々が生活していた歴史あるまちであることがわかります。

奈良・平安時代には、都と地方を結ぶ幹線道路が整備される中で、古代の官道^{*}「東山道武蔵路」も市内を通っていました。鎌倉時代には鎌倉街道が通り、末期には新田義貞の軍勢と鎌倉幕府軍による小手指ヶ原合戦が繰り広げられました。室町時代に築城された「滝の城」は、戦国時代に小田原北条氏の支城^{*}となりました。

江戸時代になると、所沢は交通の要衝、物流の拠点として栄えました。また、柳沢吉保^{やなぎさわよしやす}による三富新田をはじめとする新田開発により畑作地帯が広がりました。農間余業^{*}として綿織物生産が盛んとなり、明治時代には「所沢織物」のブランドで各地に流通しました。明治28（1895）年には川越鉄道が敷設され所沢駅が開設し、大正4（1915）年に武蔵野鉄道が開通しました。また、明治44（1911）年に我が国最初の飛行場が開設されたことから本市は「航空発祥の地所沢」と呼ばれています。

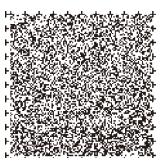
昭和18（1943）年には、所沢町と近隣の松井、富岡、小手指、山口、吾妻の5村が合併。昭和25（1950）年に埼玉県で8番目に市制を施行し、昭和30（1955）年には、三ヶ島村、柳瀬村と合併して、現在の市域となりました。市制施行時は、人口4万2千人余りで、柳瀬川、東川沿いには水田、台地には茶園や畑、そして雑木林の広がる農業中心のまちでした。

その後、昭和34（1959）年、新所沢地区に住宅団地が建設されたのを機に、都心への交通の利便性などから市内各地で大規模な宅地開発が行われ、急激な人口増加の時代を迎え、首都圏有数の住宅都市へと変貌します。近年、この勢いは鈍化したものの、平成19（2007）年には、人口が34万人に達しました。

市の中央部に位置する米軍所沢通信基地は、長年にわたる返還運動が実を結び、これまでにその



「アンリ・ファルマン機」最初ノ野外飛行
(明治44年6月9日撮影)



※官道…古代日本の中央政府が飛鳥時代から平安時代前期にかけて計画的に整備・建設した道路。
※支城…本城を補助するために配された城。
※農間余業…農間稼ぎ。農民が耕作の合間に賃稼ぎのためにおこなった本業以外の仕事。

約7割が返還され、我が国の「航空発祥の地」を記念した所沢航空記念公園や市民文化センター・ミュージズをはじめ、各種の文教施設や福祉医療施設、官公署などが整備されています。

県内はもとより、首都圏でも有数の自然環境と人口規模を有する本市は、今後も様々な魅力にあふれた県西部地域の中心的な都市として、一層発展していく可能性を持っています。

(3) 市の特徴

本市は、都心に近く、県西部地域の中心的な都市でありながら、人々の生活や伝統とみどり、文化が調和しています。

狭山茶やさといも、にんじん、ほうれん草などの露地野菜*を中心とした農業も盛んであり、焼だんご、手打ちうどんといった食文化、雛人形や押絵羽子板のような工芸、重松流祭囃子*などの伝統が育まれています。

地理的には、北部に「農」の伝統を伝える代表的な地域である三富新田、西部には狭山湖や『トト口の森』のある狭山丘陵といった「みどり」があり、狭山丘陵の中には埼玉西武ライオンズの本拠地である西武ドーム球場もあります。

南部には所沢駅周辺を中心市街地などの「にぎわい」があり、中心部には所沢航空記念公園、市民文化センター・ミュージズなどの市民の「憩」の場があります。そして、東部では『COOL JAPAN FOREST 構想*』の中心となる「新たな文化」の拠点が生まれようとしています。

さらに、令和2（2020）年の東京2020オリンピック・パラリンピックでは、早稲田大学所沢キャンパスがイタリア選手の事前キャンプ地として選定されるとともに、市民体育館がゴールボール*のナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設*に指定されるなど、新たなレガシー（歴史遺産）誕生が期待されます。



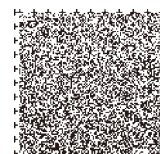
*露地野菜…温室や農業用ハウスを用いずに畑で栽培された野菜や花。

*重松流祭囃子…所沢に生まれた古谷重松が編み出した囃子の流派。「じゅうま」は重松の愛称であり、所沢を中心に入間・多摩地域に広まった。

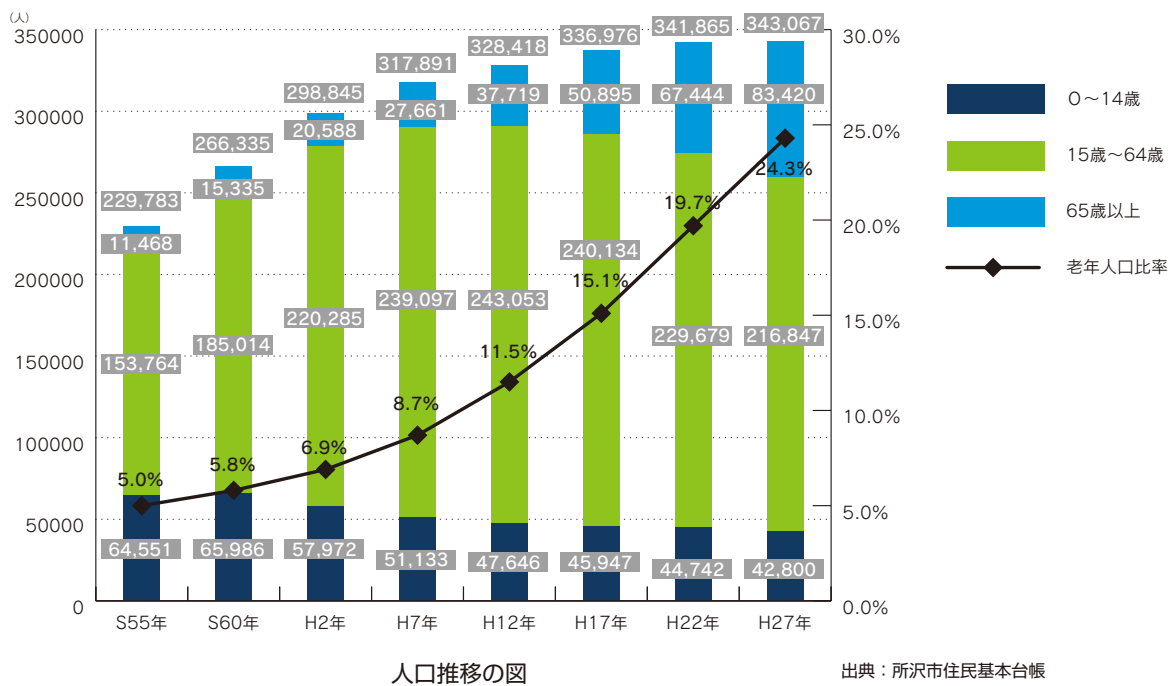
*COOL JAPAN FOREST 構想・CJF 構想…本市と株式会社KADOKAWAが、共同プロジェクトとして取り組んでいる、文化と自然が共生した、誰もが「住んでみたい」「訪れてみたい」地域づくりを進める構想。

*ゴールボール…パラリンピック競技。目隠しをしながら鈴の入ったボールを音を頼りに投げ合い得点を競う視覚障害者のために考案された競技（スポーツ）。

*ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設…ナショナルトレーニングセンター（東京都北区）では対応できない、冬季、海洋・水辺系、屋外系の競技および高地トレーニングについて、トップアスリートの強化活動の場所の確保を目的とし、指定されたトレーニング施設。



(4) 人口について



①人口推移について

本市の人口は着実に増加し続け、平成23（2011）年10月に34万3千人を超え、その後は同規模を維持しています。

また、年齢構成別にかかる割合では、生産年齢人口[※]の割合は減少傾向にあり、老年人口[※]の割合が年々増加傾向にあります。

第5次所沢市総合計画では、平成25（2013）年には人口のピークを迎え、平成31（2019）年には34万人を割り込むものと推計されていました。

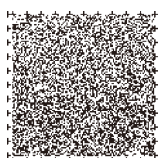
この現状を鑑み、総合的に取り組む重点課題を設け、第5次所沢市総合計画基本構想に掲げる将来都市像の実現に向け、様々な取り組みを進めてきました。

その結果、平成29（2017）年度の所沢市市民意識調査[※]では、「所沢市への愛着度」が「持っている」「どちらかといえば持っている」をあわせると、85.2%と過去最高値となりました。

また、総人口については、平成25（2013）年以降も横ばいで推移しており、平成29（2017）年においても減少傾向には至っていない状況です。

②人口目標について

将来的な生産年齢人口を確保していくため、令和10（2028）年において、33万人を維持し、そのうえで生産年齢人口については6割程度の維持をめざします。

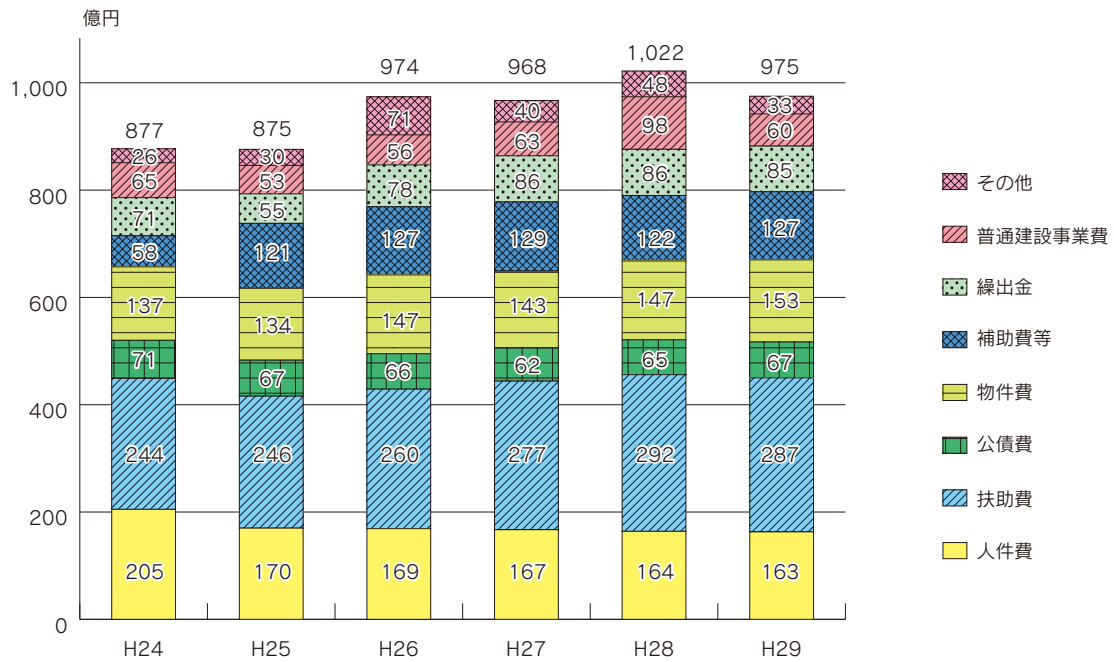


※生産年齢人口…15歳から64歳までの人口層の人数。

※老年人口…65歳以上の人口層の人数。

※市民意識調査…市の現状の把握と将来のまちづくりの方向性について市民の意見を伺うために、毎年実施しているアンケート調査。平成30年度は無作為抽出による18歳以上の所沢市民5,000人を対象に実施した。

(5) 財政状況の推移及び現状の課題等



一般会計歳出決算額の性質別内訳の推移

①財政状況の推移

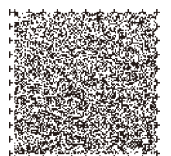
歳出決算額は、平成28（2016）年度に初めて1,000億円を超えました。

内訳を見ると、「人件費」は年々減少しているものの、福祉に要する経費である「補助費」の増加が顕著になっています。これは国全体の傾向でもある、高齢化の進行に伴う社会保障経費の増大によるものが大きな要因となっています。

②現状の課題

市税収入が微増にとどまるなか、歳出は社会保障経費等の経常経費^{*}の増加が続いています。このことにより、公共施設の維持管理等の財源や新たな行政課題への対応の財源を十分に確保できないこと、また、新規事業のための財源の不足により政策の自由度が低くなっていることが課題となっています。

^{*}経常経費…人件費、補助費、公債費などのように毎年度経常的に支出される経費。



4. 総合計画とは

(1) 総合計画策定の目的

総合計画は、本市を取り巻く社会情勢の変化を踏まえ、総合的かつ計画的な市政運営を図るため、まちづくりの理念や将来都市像、目標などを示したものです。(所沢市自治基本条例第22条)

(2) 構成

総合計画の構成は、基本構想、基本計画、実施計画の3層構造としています。(所沢市自治基本条例第22条)

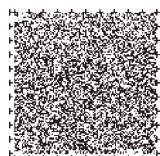
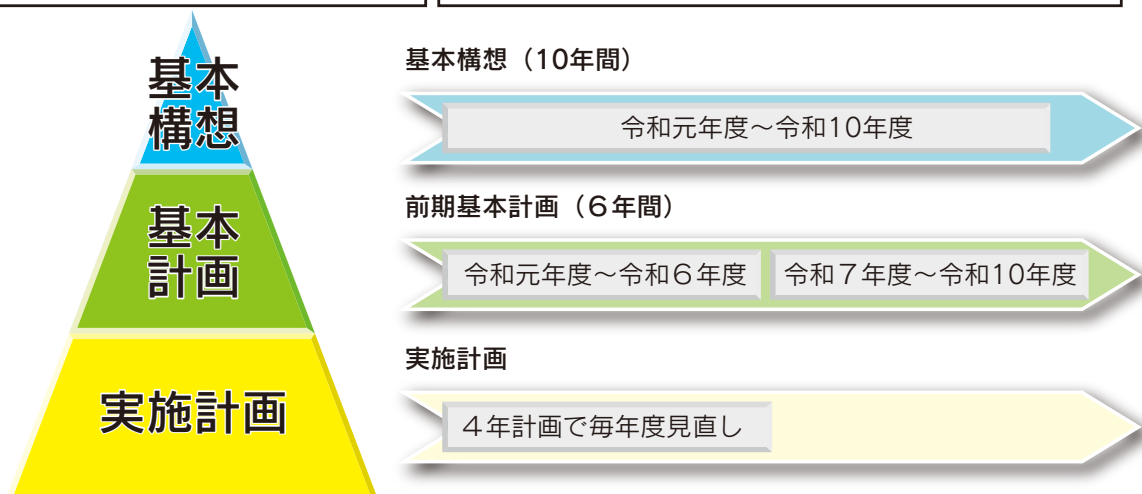
基本構想：まちづくりの理念及び将来都市像並びにこれらを実現するためのまちづくりの目標を示したものです。

基本計画：基本構想を実現するため、まちづくりの目標に対する現状、課題及び課題解決に向けた施策の方針並びに施策の体系及び主要な事業などを示したものです。

実施計画：基本計画で示された施策及び主要事業並びに新たに生じた課題解決に向けて必要な事業など、実施の時期及び実施に当たっての具体的な方策を示したものです。

構成と計画期間のイメージ

～第6次所沢市総合計画における各期間～

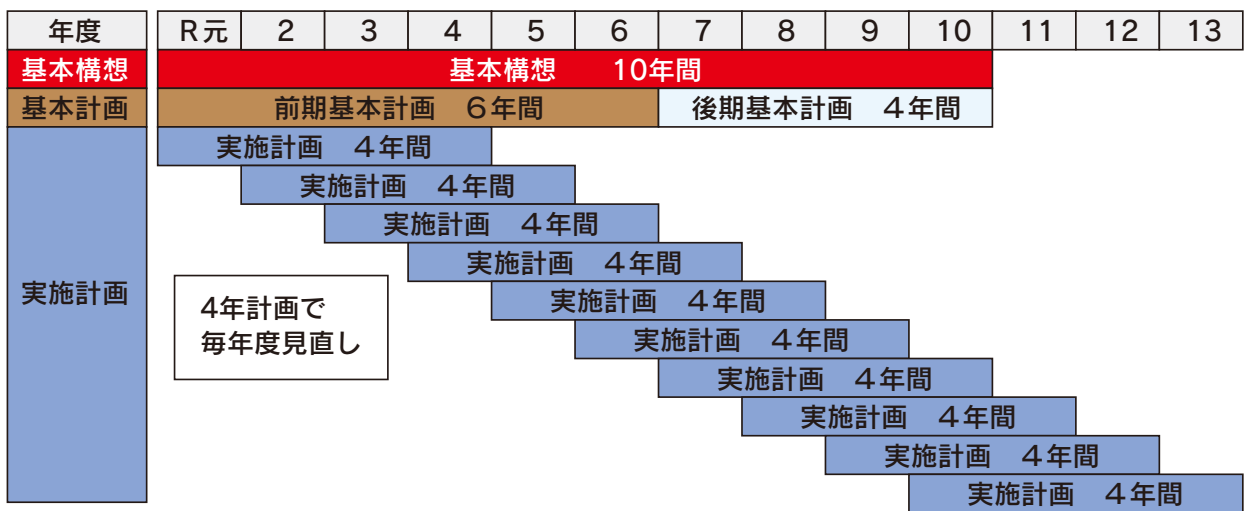


(3) 計画期間

総合計画の計画期間は、策定時の社会情勢や政策判断などにより設定しており、第5次所沢市総合計画では、市長任期の4年にあわせ、基本構想を8年間、基本計画を前・後期それぞれ4年間としていました。

第6次所沢市総合計画では、基本構想を令和元（2019）年度から令和10（2028）年度の10年間とし、さらに効果的に施策を推進するため、前期基本計画を6年間、後期基本計画を4年間とします。

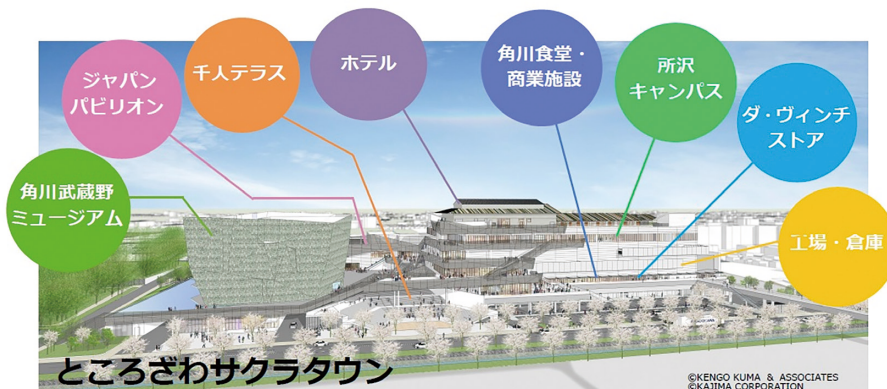
前期基本計画期間中には、「ところざわサクラタウン」の整備、所沢駅西口の再開発、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催など、市の取り巻く状況に大きな変化が見込まれることから、確固たる方針のもとに施策を推進するため、6年間としています。



各計画期間



ところざわサクラタウンって何??



「ところざわサクラタウン」は、所沢市と株式会社KADOKAWAの共同プロジェクト「COOL JAPAN FOREST 構想」の拠点施設です。

株式会社KADOKAWAが建設・運営する工場、オフィス、イベントホールや図書館、美術館、博物館が融合した施設として、2020年東所沢にオープンします。

